転出された先生から

山口大学退職のご挨拶

元電気電子工学科助教　西村　悠樹

師走の候、皆様にはご機嫌うるわしくお過ごしのことと存じます。私こと、本年3月31日をもって山口大学を退職し、4月1日より鹿児島大学大学院理工学研究科機械工学専攻で准教授として勤務しております。

山口大学との出会いはよく晴れた冬の日でした。氷点下の札幌から飛行機を乗り継ぎ、初めて宇部の土を踏みました。タクシーの車窓からは伝統的な日本家屋が見え、その庭には黄金色の柑橘類がたくさん実っておりました。それまで札幌で暮らしていた私にとって、真冬に果実が実っている姿は大変に新鮮でした。あれは八朔ではなかったかと思います。

その後、ご縁がありまして、2009年4月からの3年間、電気電子工学科の助教として勤務させていただきました。宇部での生活は非常に濃密で、実にさまざまな出来事がありました。大学教員としての地盤固めに邁進した一年目、人生の大きな転機となった二年目、そして次なる職場を探した三年目と、休まる間もなくいろいろな出来事が押し寄せました。

電気電子工学科では田中幹也教授と若佐裕治准教授とともに、制御情報工学研究室に所属しておりました。お二人の下でさまざまな制御工学の研究に触れさせていただきました。特に、田中先生のテーマである超音波モータのサーボ制御や上肢障碍者用食事支援ロボットの開発などは、大変に刺激的でありました。学生時代は制御理論しかしていなかったため戸惑うことも多々ありましたが、その苦悩の中で視野がぐんと拡がったと感じております。そして、理論は実応用のために発展させるべきであるという、工学系理論家としての本来あるべき姿勢を体得できました。改めまして、両先生に深く御礼申し上げます。

職場環境におきましては、電気電子工学科の皆様に大変お世話になりました。そのほか、機械・社会建設・知能情報などの若手教員の方々とも交流させていただき、身寄りのいなかった宇部での暮らしが充実したものとなりました。皆様、誠にありがとうございました。

本当はもう少し山口大学で勤務したかったのですが、任期付きでしたので転出の道を選びました。直に経験した立場から申しますと、私にとって任期付きとは、火のついた荷物を背負って行う短距離走のようなものでした。一定時間内にゴールしなければ体に火が回って焼けてしまう。その代わり短距離走だから構わないでしょう、というわけです。田中先生や若佐先生の強力なサポートが無ければ、もとより足の遅い私はどうなっていたか、今でも空恐ろしく思い起こされます。ところで、研究や教育における偉大な成果というものは、往々にして長距離走の中で現れるものではないのでしょうか。

鹿児島では桜島の火山灰が降り注ぎ、靴も鞄も灰まみれになってしまいます。ですが、海の幸も山の幸も豊富で、職場の環境も大変素晴らしいので毎日元気に過ごしております。皆様のご活躍と貴学のご発展をお祈り申し上げ、退職のご挨拶とさせていただきます。